近ごろのパチューコども風ではなく……

チカーノの表現の言説分析に向けて

柳原孝敦

発表要旨

アメリカ合衆国のスペイン語系住民、いわゆるラティーノは、定義としてトランスナショナルな存在である。そこにパラドックスが存在する。彼らの表現をナショナルな表現の次元に据えようとの誘惑に駆られるからだ。とりわけメキシコ系住民、いわゆるチカーノに対しては、オクタビオ・パス、ホセ・アグスティンといったメキシコ文学を代表する作家たちが取り上げて論じているだけに、合衆国内のメキシコ人とのイメージを抱いてしまいがちだ。また、チカーノの芸術家たちが文化的に自己肯定するとき、先住民の神話世界やメキシコ民衆の信仰世界などを引用するため、やはり「メキシコ的」と短絡的に位置づけてしまいたい誘惑に駆られる。しかし、既に１９６０年代から合衆国内の大学でチカーノ研究（またはラティーノ研究）は制度化されており、そこでの研究の蓄積を考慮に入れるなら、米墨いずれかの国民の語りにナイーヴに回収されることは回避されるべきだ。私はさらに、このシンポジウム参加者中で唯一の文学研究者として、チカーノたちの自己表現としてのテクストをつぶさに読むことによって米墨国境地帯の地域研究への貢献は可能ではないかと考えるものである。たとえば、ホセ・アウグスティンによってメキシコのカウンターカルチャーの先駆けとされたチカーノの不良集団、いわゆるパチューコを題材にしたルイス・バルデスの劇作品に、遠くテキサスの国境地帯の民衆詩の残響を聞くことが可能だ。

資料

ルイス・バルデス Luis Valdez（1940-）劇作家。サンノゼ州立大学在学中に劇作を始める。El Teatro Campesino を率いて活動。1973 年、詩「蛇の思想」“Pensamiento serpentino”で先住民神話回帰に基づく強い自己肯定の姿勢を打ち出す。1978 年『ズート・スーツ』で成功を収める。他に映画『ラ・バンバ』（1987）など。

『ズート・スーツ』*Zoot Suit*（1978）1981 年にはバルデス自身の監督によって映画化もされたバルデスの代表作。1941 年、メキシコ系青年殺害の罪を疑われ、多数のチカーノの不良グループが逮捕された冤罪事件スリーピー・ラグーン事件と、それがもとで起きたズート・スーツ暴動を題材にした音楽劇。

A switchblade plunges through the newspaper. It slowly cuts a rip to the bottom of the drop. To the sounds of “Perdido” by Duke Ellington, EL PACHUCO emerges from the slit. HE adjusts his clothing, meticulously fussing with his collar, suspenders, cuffs. HE tends to his hair, combing back every strand into a long luxurious ducktail, with infinite loving pains. Then HE reaches into the slit and pulls out his coat and hat. HE dons them. His fantastic costume is complete. It is a zoot suit. HE is transformed into the very image of the pachuco myth, from his pork-pie hat to the tip of his four-foot watch chain. Now HE turns to the audience. His three-soled shoes with metal taps click-clack as HE proudly, slovenly, defiantly makes his way downstage. HE stops and assumes a pachuco stance.

Luis Valdez, *Zoot Suit and Other Plays* (Houston: Arte Público Press, 1992)

Américo Paredes, *With His Pistols in His Hand: A Border Ballad And Its Hero* (1958)　はテキサスの国境地帯に広まったチカーノの殺人者=ヒーロー、グレゴリオ・コルテスのコリードを分析してチカーノ文化研究に先鞭をつけた古典的研究書。

コリード corrido: 中世スペインに始まる民衆詩ロマンセの変種として 19 世紀半ばから 20 世紀初頭に作られ、広く流布した民衆詩。政治的・社会的事件を一定の節にのせて歌った。